

令和7年度 第1回神戸市いじめ問題審議委員会

日時 令和7年12月9日(火) 10:00～
場所 神戸市総合教育センター601号室

次 第

1 開 会

2 報 告

(1) 児童生徒の生徒指導上の諸課題に関する状況について

3 協 議

(1) 神戸市いじめ対応について

(2) その他

4 閉 会

令和7年度 第1回神戸市いじめ問題審議委員会 議事要旨

令和7年12月9日 10:00～12:00

神戸市総合教育センター 601号室

1. 開会

- ・神戸市いじめ問題審議委員会（以下：審議会）委員6名が参加、審議会規則に基づき本審議会が成立したことを確認
- ・審議会委員長と副委員長の決定と挨拶
委員長：金山 健一 教授（神戸親和大学 教育学部 教育学科）
副委員長：秋山 麗子 教授（神戸松蔭大学 教育学部 教育学科）
※委員長は、審議会委員の互選により選任。副委員長は、委員長の指名により選任。

2. 報告

(1) 児童生徒の生徒指導上の諸課題に関する状況について

【事務局からの報告】

- ・神戸市のいじめ認知件数は増加しているが、積極的認知、早期発見、早期対応の結果と捉えている。
- ・いじめ発見の端緒について、全国と比べ、教職員、保護者が多い。日頃より教職員が保護者と連携している結果と認識している。
- ・いじめが発見されたときの対応について、全国と比べ、家庭訪問の実施が多い。引き続き保護者と連携し、対応してまいりたい。
- ・いじめ対応について、教育相談窓口の周知、地域の方々との連携等について、取り組みの見直しを図った。

【審議会による意見等】

- ・いじめの態様について、神戸市は目に見えるいじめの認知件数が多い。潜在的ないじめがないか確認が必要である。また、「いやなことや恥ずかしいこと」にはわいせつ事案も含まれており、全体に占める割合が高くなっていると考えため、今後、未然防止の対応が必要である。
- ・神戸市は全国と比べ、家庭訪問の件数が多い。家庭訪問が多いことは肯定的に捉えるべきことであるが、担任教員のみ負担にならないよう組織的に対応してもらいたい。
- ・いじめアンケートについては、紙で実施しているが、児童生徒が回答しやすいよう、システム化も含めて検討していく必要がある。また、いじめアンケートに校長のメッセージや、児童生徒のメッセージなどを記載することもいじめ防止に繋がっていくのではないかと。
- ・いじめ重大事態の発生件数が多いことは課題であり、引き続き、未然防止に注力していく必要がある。

----- 審議委員会規則に基づき以下非公開 -----

3. 協議

- (1) 神戸市いじめ対応について
- (2) その他

4. 閉会